



安曇野市公民館報

安曇野市  
中央公民館  
No.34 2016.12.7  
TEL 71-2466

平成28年度



# 安曇野市文化祭



10月15日から11月20日にかけて、各地域で文化祭が開催されました。



# 三郷

三郷祭は、総合芸術展として10月15日の「文化産業展」から11月5日の「芸能発表会」までの22日間にわたり、芸術の音色と色彩と香りを運んだ。

## 【文化産業展】

三郷文化公園体育館で、15、16日に開催した「文化産業展」は、32団体が出展した。書道・ペン習字教室、短歌会・俳句会、押花絵画・押絵・絵手紙、写真の各フォトクラブなど多士済々である。絵画展で入賞者を輩出する「三郷美術会」や30人の大所帯で隆盛を誇る子どもの「水彩絵画クラブ」の作品、「みさと伝統文化」の20人余りが制作した作品が並んだ。手芸・工芸・陶芸の他、山野草・盆栽が所狭しと展示されていた。



## 【ふれあいコンサート】

三郷中学校講堂で22日、「ふれあいコンサート」を開き、コーラスグループが歌声を競い、「小倉尺八倶楽部」と木の笛コカリナの「安曇野笛の会」は練習の成果を発表した。地域の指導者・降旗幸子さ

んが指導する小学校の授業内クラブ「ミュージックベルクラブ」は、優しい音色を届けた。三郷小学校と三郷中学校の吹奏楽部が演奏し、合唱部は、小中学校の合同合唱も披露した。

## 【芸能発表会・菊花展】

三郷公民館講堂で、11月5日、「芸能発表会」を開き、19団体が出演した。「三郷音頭保存会」「三郷義民太鼓保存会」「上長尾獅子舞保存会」の伝統芸能の他、「三郷吟友会」「太極拳同好会」が演舞を発表した。「ジュニアダンス」「バレエ」「歌謡の会」に、公民館の講座からスタートした「フラダンスサークル」も参加した。舞踊の「小扇会」は小学生の日本舞踊の艶やかな舞姿が観客の目を引いていた。別室で小学生のお茶席があり、ロビーでは菊花展が開かれて、まさに菊薫る秋の気配を醸していた。(東山路)



# 明科

## 日々進歩を目指して



第12回明科地域文化祭が、11月3日から6日にかけて行われた。玄関前には関尚義さんが丹精込めて育てた菊が展示され、入場者の目をくぎ付けにした。展示期間中は菊に水を与え、手入れを怠らない関さんの姿に、菊に対する愛情と情熱を感じさせられた。

絵画は中学生、高校生、一般の10点余りの力作が展示された。3点を出品した平林洋子さんは「ずっと描いているけど自己流だからうまくならない。楽しんで描いています。この不動明王は私に似てるでしょ」と笑顔で語った。

5日、地域住民のステージ発表会「お楽しみサロン」が行われ、高原里佳さん親子のピアノ演奏を皮切りに、歌、落語、踊りが披露

され、最後は上押野の獅子舞の演舞で盛り上がった。昨年も出場した、明南小学校4年生の高原彩樹さん、同校2年生の麗佳さんは格段に上達しており「娘たちがうまくなっているのでも私も負けないよう日々練習をしています」と、母の里佳さんは継続の大切さを語った。

最終日は、明科地域芸能発表会が行われた。はじけるような子どもたちのダンスと華やかな芸文協の団体の踊りが対照的で、印象に残った。



# 堀 金

堀金文化祭は、10月28日から30日の間、作品展示をはじめとして堀金総合体育館で開催した。

## 【作品展示】

メインアリーナには、書道、絵画、写真、盆栽、菊花に生け花など、日頃の教室や趣味の活動で磨いた技を結集した作品が並んだ。俳句短歌、郷土史は、文学や地理・歴史を学び研究してきた成果を発表し、また、ドラマ「真田丸」をほうふつさせる甲冑が、大小3体飾られた。地区公民館の作品コーナーは、女性部が開催した手芸講座の秀作などが多数出展された。

## 【まじいの広場】

サブアリーナで29日、小中学生の日頃の活動の発表の場として「まじいの広場」を開催した。堀金小学校の高学年47人で構成する「金管バンド部」の演奏は家族が熱い視線を送っていた。堀金中学校の和太鼓「赤鬼塾」の勇壮な演舞、各種大会で入賞を重ねてきた「堀金中学校吹奏楽部」は円熟した音色を披露した。



## 【堀金芸能祭】

堀金芸能祭は29日の午後、「まじいの広場」に引き続き開催し、

22グループが発表した。コーラス・詩吟や剣舞、大正琴に文化箏、二胡、太鼓、民謡に民踊、フラダンスにキッズダンスと枚

挙にいとまのない多彩な芸を披露した。地域から民謡が廃れないようにと活動を続ける「駒の会」は花がさ踊りで花を添えた。けん玉の全国大会で入賞したけん玉パフォーマンズが喝采を浴びていた。



## 【堀金一周駅伝大会】

通算52回を数える伝統の「堀金一周駅伝大会」は30日に開催し、地域内全地区をリレーして地区の10選手が襷を繋いだ。80人余りがエントリーしたオープン参加レースの後、公民館を発着点としたコースで熱戦を展開した。終盤に近い8区で下堀地区が、堀金中学校の陸上部の健脚・飯森瑠花さんの活躍で3位から一気にトップに立ち、9、10区とそのまま逃げ切つて優勝を飾った。(東山路)



# 豊 科

豊科公民館の改修後、初めての開催となる豊科地域文化祭は、3カ所の会場を使って、10月28日から11月20日にわたって、にぎやかに行われた。

豊科交流学習センター「きぼう」では、回廊での菊花展をはじめ、華道展、フラワーアレンジメント展、週末に合わせ茶会が行われた。丹精込めて育てられた菊の花々は、この時期に合わせて年間を通じて手をかけ、美しく咲き誇っていた。最優秀賞は大輪の部の丸山斌(はるひ)さんが受賞、3本仕立てされた純白の菊が、強く印象に残った。



豊科公民館では、盆栽展、一般の作品展示、短歌大会、俳句大会が行われた。地区公民館やサークルなどの作品展示では、心を込めて作られた作品が多数展示されていて、足を止めて見入ってしまう、時間が経つのを忘れてしまう

ほどの見応えがあった。

豊科郷土博物館会場では、美術・書道作品の展示が行われ、照明など、鑑賞に配慮した展示がされて、作品が一層引き立っていた。会期中は休館日の月曜日も開館して、来館者を出迎えた。



また、芸能発表会は、リニューアルした豊科公民館大ホールで、29団体が日頃の練習の成果を発表した。おとし、昨年は改修工事のため、別会場での開催となっていたが「ようやくホームグラウンドに戻った」「大きなステージで思いっきり発表ができる」「きれいな会場で嬉しい」そんな感想も聞かれた。今回は地域内の小中学校や高校をはじめ、ダンスやバレエのグループの子どもたちが大勢参加し、また、元気に活躍する年配のグループもあり、老若男女が集ってお互いの発表を見て、大きな拍手で応援するとても良い交流の場となった。



# 穂高

第12回目となる穂高文化祭は、10月28日から11月13日にかけて開催された。

穂高会館では、28日9時より開場式が行われ、宮澤市長があいさつを述べた後、関係者と共にテープカットを行った。

会場には拾ヶ堰に関する展示や、彫刻、生け花、書道、押し花、地域内の小中高校生の作品などが出展されていた。また館内では、他に高齢者作品展、安曇野緑の会「安曇野における万葉の植物」展も行われた。穂高北小学校6年生



の伊藤大志君は「自分の絵が展示されるのは初めて」と照れくさそうだった。塚原押し花クラブは、しおり作りの無料体験コーナーを設け、参加者は色鮮やかな花をピセットで丁寧に乗せていた。

「芸能まつり」はカラオケ大会、芸能まつり第一部、第二部と3日間に分けて行われた。第一部は、民謡や日本舞踊、フラダンスなど35組の出演者たちが日頃の練習の成果を披露した。第二部は、合唱や箏、モダン・ジャズ、小中学校吹奏楽部など16団体の演奏が行われ、大勢の観客でにぎわった。参加した穂高南小学校4年生の佐藤史桜音さんは「初めて演奏に出て緊張したけど、うまくいって良かった」と話した。

穂高神社境内では、盆栽・山野草展、あづみ野菊花品評会、穂高人形・御船祭保存会3教室展が開かれ、参拝者や七五三の子どもたちが興味深く見入った。

## 干し柿作り講習会

11月10日、明科公民館で「干し柿作り講習会」が行われ、明科地域の晩秋の伝統行事である干し柿作りの技を習得しようと28人が参加した。あかしな農業塾会長の内川充弘さんのユーモアあふれる分かりやすい説明で、和やかで楽しい講習会となった。実習では、農業塾で栽培管理している平核無柿ひらたねなしがきを使い、はく皮、連作り、硫黄薫蒸作業を行ったが、その後、乾燥はざおろし、粉出しを経てようやく賞味できる。

三郷地域から参加した百瀬万里子さんは「初めて干し柿を作りました。家の柿がたくさん実って困っていたが、これで干し柿を作ることができそうです」と、うれしそうに語った。



## 明科公民館長の再任

11月1日付で、明科公民館長に安井邦夫さんが再任されました。  
(任期 平成30年3月31日まで)

## 檮

晩秋のある朝、庭先に見慣れない小鳥がやってきた。マヒワかアトリか、背は暗褐色で胸腹部は緑がかつた黄色をしている。縄張りに迷い込み、争いに巻き込まれたか猛禽類に襲われたか、翼が傷ついて既に息絶えていた。木の根元に埋めようと落ち葉の上に寝かせると、足元に鑑識リングらしき金具が付けられている。勝手に処理するわけにもいかず、烏川渓谷緑地に問い合わせると、刻印があれば調べてと言われた。JAPAN・TOKYO・KANAKYOSYOと刻まれている。この場合、山階鳥類研究所に連絡するとのことだ。小鳥の名はアオジという。国内を夏冬移動する漂鳥だという。自然の事象に造詣が深くない身には珍しい出来事だ。知識の薄さにへきえきしているより、自然の世界に教えを乞う姿勢を持つても言うがごとの突然の来訪に感謝して自身を見直す機会にしたい。(T・Y)

## 〈お詫びと訂正〉

公民館報第33号に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。  
3ページ2段6行目  
〈誤〉八幡宮、白山社、諏訪社の小倉3社  
〈正〉八幡宮、白山社、諏訪社及び玉鉾神社の小倉4社